

# サステナブル

持続可能な社会の再構築とICTの応用

香川県仲多度郡まんのう町にある「まんのう町立図書館」。同図書館は昨年6月にオープンした同町唯一の公立図書館だ。その大きな特色は電子書籍にも対応したハイブリッド図書館を志向している点にある。現状の取り組み取材した。

(北島圭)

## まんのう町立図書館の取り組み

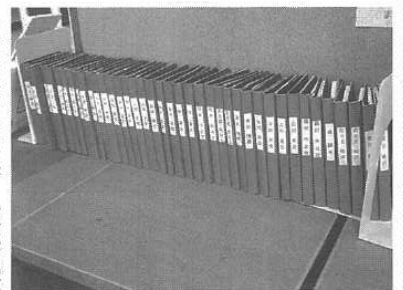
まんのう町立図書館。香川県仲多度郡まんのう町にある同図書館は昨年6月にオープンした同町唯一の公立図書館だ。その大きな特色は電子書籍にも対応したハイブリッド図書館を志向している点にある。現状の取り組み取材した。

電子書籍にも対応した、いわゆるハイブリッド図書館である。現在は、全国でさまざまな図書館が電子書籍の導入に取り組んでいる。その手法は千差万別で、利用者の自宅パソコンから図書館のホームページにアクセスしてパソコンで読

ない市民にはiPadの館外貸出も行っている。現状館内にはiPad 17台とkobo 100台を用意。iPadでは青空文庫の電子書籍とすばる舎のビジネス書100冊を閲覧できる。利用者はその中から好みの書籍を選択、電子図書館システムを通して閲覧する。一方、koboは青空文庫のみに対応。ただ青空文庫の作品は膨大なので作家別に作品を格納。例えばある

貸し出しがあったが、現在は月に5台くらいだという。一方で名作の一斉読書など学校支援ツールとして活用されている。iPadのほうは、いまも月に50台-60台の貸し出しがあるそうだ。

「現在は、館内にあるセンタータブ席にkoboを設置している。まずは利用者慣れていたということ。また、こうした取り組みを展開している」と鍋嶋氏は話す。



koboで読む作家別全集



センタータブに設置されたkobo



書架に設置された図書検索用iPad

## iPadやkoboをハイブリッド化

同館では、電子書籍のバリエーションを増やしたい考えだが、出版社などに電子書籍の対応が異なる

り、この動きは今後も広がっていくだろう」と話す。しかし、今後どのような形で電子書籍が進むのか、いまはまったく見えない。このような状況では、流れがどう変わっても柔軟に対応できるようにしておく必要がある。そのため情報収集や取り組みにも余念がない。

koboには芥川龍之介の作品しか入っていない。開館した当初は、物珍しさもあって、koboは月間30台以上の

Padを取り付け、書籍検索ができるようにしている。若年層は電子書籍に関心

とは言え、鍋嶋氏は「iPadで電子書籍を読んでいるのは中学生や高校生などの若者を中心。若者は電子書籍に関心を寄せてお

まんのう町には同